

「家庭用塩の消費実態に関する調査」(平成 26 年度)の概要

1. 調査の目的

生活用の分野(主に小売店で販売されている塩)の中でも大きな割合を占めていると推定される「家庭用塩(家庭で消費される塩)」の消費の実態(購入動機、消費量、用途等)について明らかにすることを目的とした。本調査は平成 14 年度より 3 年ごとに実施し、今回で 5 回目となる。

2. 調査の時期

平成 26 年 11 月上旬～12 月下旬

3. 調査の対象

全国の 2 人以上の一般世帯

4. 調査の方法

調査票を郵送し、記入の上返送(郵送調査)

有効回収数 1,024 通 回収率 41.0%

5. 結果の概要

平成 20 年度、23 年度、26 年度の調査で、変化が見られたのは以下の 3 項目であった。

- ・塩を購入するきっかけにおいて「値段が安い」を選択した割合が増加する傾向
- ・塩を購入するきっかけにおいて「健康に良い」を選択した割合が減少する傾向
- ・塩の使用において「家庭でつけものを食べる」割合が減少する傾向

また、その他の結果については以下の通りであり、概ね経年的な変化は見られなかった。

(1) 塩を買うときに重視する項目

表示については「原産国(原産地)」(84.1%)、「価格」(72.4%)、「成分」(63.9%)等を重視する割合が高く、「キャッチコピー」(27.4%)は低かった。

内容については「添加物の有無」(80.8%)、「塩の味」(76.2%)、「添加物の種類」(75.9%)、「塩の純度」(63.1%)等を重視する割合が高く、「塩の粒の形」(26.7%)、「しっとりしている」(37.4%)は低かった。

(2) 塩を購入するきっかけ

「品質が安心」(76.5%)、「産地がはっきりしている」(50.5%)、「味が良い」(49.2%)等が上位を占めた。水分については「さらさらとしている」(41.2%)と「しっとりしている」(15.1%)であった。

「値段が安い」(37.7%)については、平成 20 年度(32.7%)、平成 23 年度(36.3%)よりも選択した割合が増加したが、年齢が若いほど「値段が安い」ことを重視する傾向があり、平成 26 年度の「20～29 歳の年齢層」では 66.7%が重視すると回答した。

その一方で、「健康に良い」(33.4%)については、平成 20 年度(42.1%)、平成 23 年度(39.8%)よりも選択した割合が減少した。

これらの傾向は、「食品を購入するきっかけ」と同様の傾向であった。

(3) 家庭で使っている塩の種類

「2種類」(45.7%)が最も多く、次いで「3種類」(23.1%)、「1種類」(21.4%)であった。

(4) 1年間で「1家庭」当たりの「購入した塩の総量」

1年間に購入した塩の内容量と購入個数の合算を回答者数で割った1家庭当たりの「購入した塩の総量」は4244.2gであった。

この量は、平成20年度(5493.4g)よりも1249.2g減少したが、平成23年度(4075.8g)と比べ168.4g増加した。

(5) 1年間で最も(量を)多く購入した塩

量目は「1000～3000g未満」(45.8%)、個数では「1個」(34.0%)がそれぞれ最も割合が高かった。

(6) 調理における塩の用途と塩の性状

「つけもの(浅漬け)」、「つけもの(長期漬け)」、「ゆで物」、「炒め物」、「煮物」、「焼き物」、「食材の下味」、「食卓でのふりかけ・つけ塩」へ使用する塩については、

- ①「にがり」は、いずれの調理でも「少ない」(70%前後)塩を使用する割合が高い。
- ②「しっとりした塩」は、「食卓でのふりかけ・つけ塩」(73.0%)、「炒め物」(64.4%)で使う割合が高く、「つけもの(長期漬け)」(34.4%)、「つけもの(浅漬け)」(40.2%)では低い。
- ③「粒が大きい塩」は、「つけもの(長期漬け)」(46.3%)、「つけもの(浅漬け)」(36.8%)等を除けば、いずれの調理でも使う割合が30%以下と低い。
- ④「添加物入り」の塩は、いずれの調理でも使う割合が15%以下と低い。

(7) 漬物を食べる頻度と作る頻度

①食べる頻度

「良く食べる」(35.9%)と「ときどき食べる」(40.6%)を合わせた『家庭でつけものを食べる層』は76.6%であるが、平成20年度(83.4%)、平成23年度(81.7%)よりも選択した割合が減少した。

②作る頻度

「良く作る」(21.2%)と「ときどき作る」(37.4%)を合わせた『家庭でつけものを作る層』は58.6%であるが、平成20年度(63.4%)、平成23年度(63.5%)よりも選択した割合が減少した。

これらの傾向は、自宅で「毎日食事を作る割合」が減少している傾向(平成20年度(75.4%)、平成23年度(67.9%)、平成26年度(64.4%))と同様の傾向を示した。

(8) 塩の保存法

「保存用の容器に詰め替える」(63.9%)と「買ってきた袋・容器のまま」(49.5%)、「卓上用の振り出し容器に詰め替える」(35.4%)が上位を占めた。

以上